

## (11) 沖縄



沖縄地域では、景気は悪化しつつある。

- ・ 観光は弱い動きとなっている。
- ・ 個人消費は弱い動きとなっている。
- ・ 雇用情勢は悪化している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方に変更、    は下方に変更)。

### 前回調査からの主要変更点

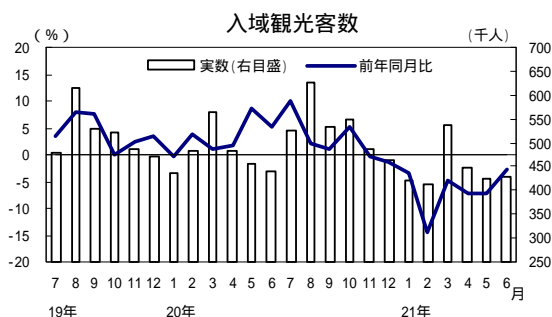
	前回(平成21年5月)	今回(平成21年8月)	
住宅建設	大幅に増加	大幅に減少	
雇用情勢	急速に悪化	悪化	

### 1. 観光及び企業動向

#### (1) 観光は弱い動きとなっている

入域観光客数は、4月は燃油サーチャージの引下げや高速道路料金の引下げなどにより、海外を含めた他地域との競争が激化したため、前年を下回った。5月はゴールデンウィーク期間中は好調だったものの、中旬以降の新型インフルエンザ感染拡大に伴う修学旅行などの中止や延期のほか、香港などからの大型クルーズ船の寄港回数が少なかったこともあり、前年を下回った。6月は他地域との競争の影響は続いているものの、静岡-沖縄路線開設などの増便効果や前年同月を上回る大型クルーズ船の寄港回数などがあったため、前年比の減少幅は縮小した。

主要ホテルの客室稼働率は、入域観光客数の減少に伴い那覇市内ホテル、リゾートホテルともに前年を下回った。



#### 入域観光客数等の動向

(単位:千人、%)

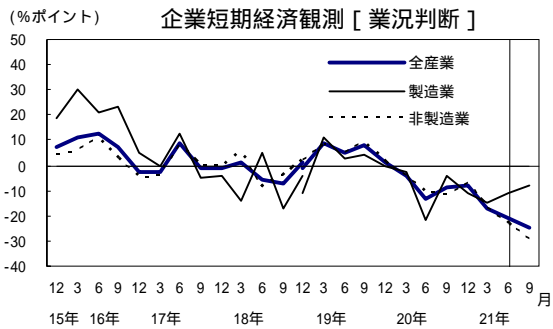
	20年7-9月	10-12月	21年1-3月	4-6月
入域観光客数	1,687	1,497	1,371	1,299
(前年比)	4.1	1.3	7.5	5.9
ホテル稼働率	81.1	71.7	70.2	65.7
(前年差)	0.5	0.6	8.0	4.3

(備考) 1. 入域観光客数は沖縄県観光工商部調べ。

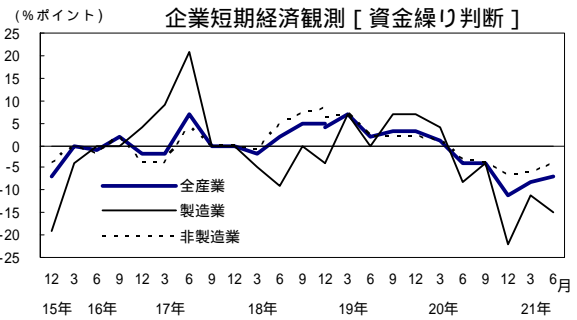
2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。調査対象は43ホテル。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が縮小している。

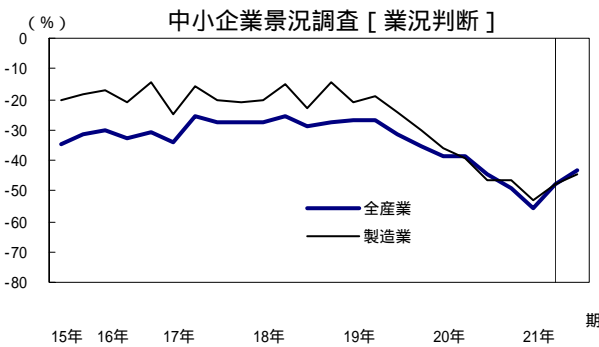
### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。21年9月は予測。  
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。  
九州(含む沖縄)地区のD I。

### 景気ウォッチャー調査(5月)[企業動向関連(現状)]

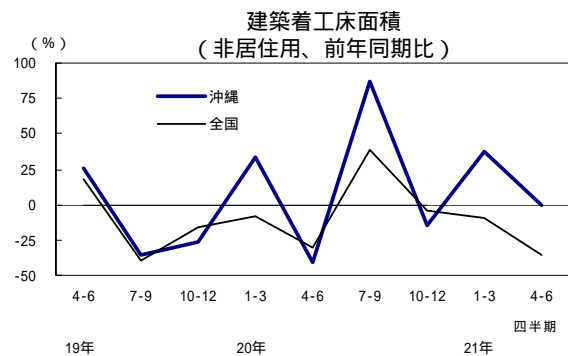
「全体的に消費が落ち込んでいるなか、卸業、建築業、外食産業の物量は低い水準となっている(輸送業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 21年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

### 企業短期経済観測調査[設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	20年度実績	21年度計画
全産業	10.7( 2.3)	38.6( 8.7)
製造業	109.9( 1.9)	52.7( 6.6)
非製造業	2.3( 2.3)	36.1( 8.9)

(備考)( )は前回(3月)調査比修正率。石油・電力を除く。



## 2. 需要の動向

(1) 個人消費は弱い動きとなっている。

百貨店販売額、スーパー売上高、家電製品販売額

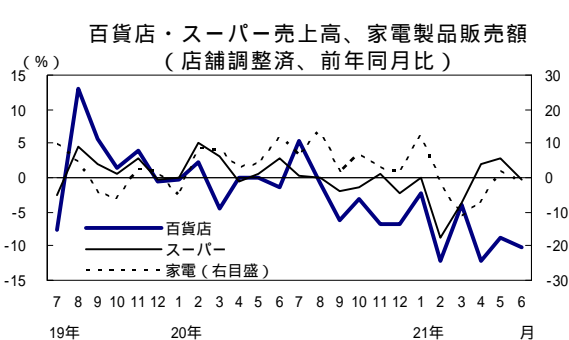
百貨店は、4月は催事を行ったものの、多くの品目の売上が減少したため、大幅に前年を下回った。5月は買上点数及び単価が下落し前年を下回ったが、前年よりも日曜日が1日多かったこともあり、衣料品、食料品は前年比の減少幅が縮小した。6月は催事の効果により雑貨は好調だったものの、梅雨明けの遅れなどにより幅広い品目で前年を下回った。

スーパーは、不要品買い取りセールにより住宅関連商品は好調だったものの、衣料品などの売上が減少し前年を下回った。

家電は、エコポイント導入後は薄型テレビなどの販売が伸びたものの、梅雨明けの遅れなどに伴うエアコンの販売不振があったため、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「前年比5%の減少と、観光客の利用が悪い状況にある。しかしながら、7月月初では10%減を予測していたのに対し、中旬で予約が伸びており、今年は旅行出発間際に利用申込をする傾向が見られる(その他のサービス[レンタカー])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

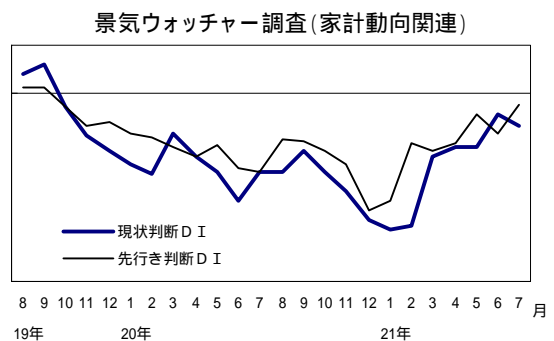
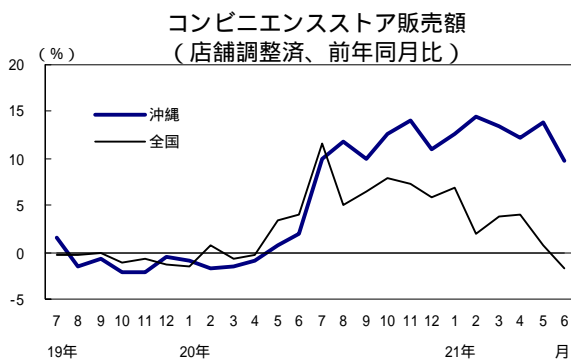


	(前年同期比、%)			
	20年7-9月	10-12月	21年1-3月	4-6月
百貨店	0.4	5.7	6.0	10.4
スーパー	0.6	1.1	4.1	1.5
家電製品販売額	7.0	3.3	2.1	2.4
乗用車	3.2	6.7	22.8	20.4
景気ウォッチャー	34.5	28.5	26.4	40.7

(備考) 1. 百貨店、スーパー、コンビニ(いずれも既存店)家電(卸売、手数料等を除いたベース)は日本銀行開示支店調べ。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。

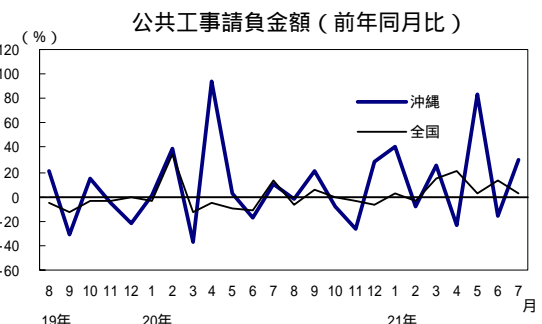
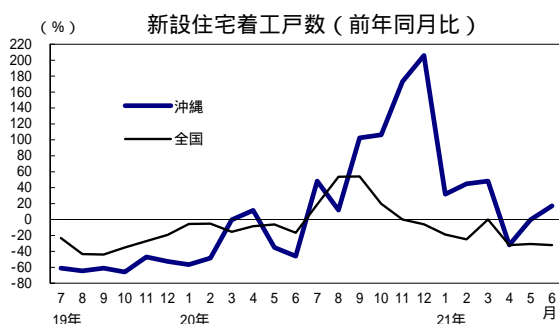
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

分譲が前年を大幅に下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は21年度累計で見ると前年度を上回っている。

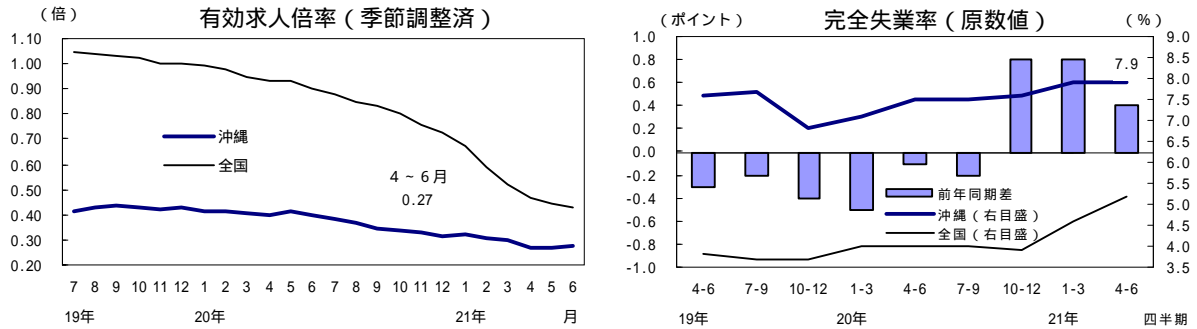


### 3. 雇用情勢等

#### (1) 雇用情勢は悪化している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



#### 景気ウォッチャー調査 (6月)[雇用関連(現状)]

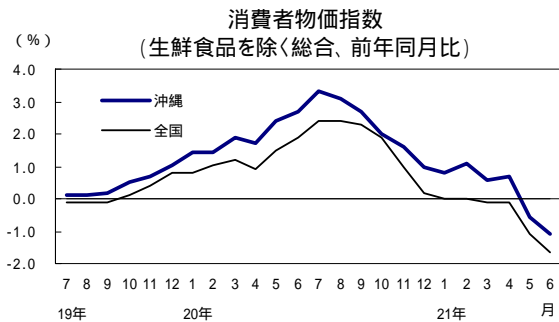
「悪い状態のままで変わらない。IT企業などは新規案件が例年だと6月以降に入りですが、今年はまだ見通しが厳しいとの話しを聞く。新規案件がない状態だと新たに人材を雇い入れることもできない(民間職業紹介所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

#### (2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

#### (3) 消費者物価指数は下落に転じている。

#### 企業倒産

	(件、億円、%)				
	20年7-9月	10-12月	21年1-3月	4-6月	21年7月
倒産件数	35	21	24	22	5
(前年比)	118.8	12.5	7.7	37.5	66.7
負債総額	607	25	95	67	6
(前年比)	3,904.6	25.6	112.5	35.5	98.9



#### 景気ウォッチャー調査 (7月)[合計(特徴的な判断理由)]

##### <現状>

- ・最近ベストセラーが出版されたが、それ以外の商品の動きがパツリと止まった。娯楽としての読書はほとんどの人が図書館などで済まし、購入する人は本当に減ってしまった(その他専門店[書籍])

##### <先行き>

- ・高齢者の買物が増えていることなどから、売上は少し期待できる。スーパーとの価格差が縮小していることもあり、遠くのスーパーより、近くのコンビニで買物するのが増えている。例えば2~3キロの米など、重量のある物が売れている(コンビニ)

